

黄金の腕 (1955)

THE MAN WITH THE GOLDEN ARM

メディア 映画

ジャンル ドラマ

製作国 アメリカ

色彩 B&W

時間 115分

初公開日 1956/05/29

公開情報 松竹

【解説】

麻薬中毒者に扮するシナトラの、禁断症状に苦しむ迫真の演技が評判を取り、テーマがテーマだけに検閲論議のタネとなって、製作・監督のプレミンジャーがますますハリウッドの問題児たる面目を保った力作。“黄金の腕”とあだ名されるカードの名手フランキーは、六ヶ月の療養所生活を終え、古巣の町に戻った。アパートには車椅子生活の妻ゾシュ（E・パーカー）が待っていた。夫の飲酒運転の結果そうだったが、実は既に治っており、彼が自分から離れないよう不具のフリをしているのだ。フランキーは博奕打の暮らしに戻りたくはなく、施設で持ち前のリズム感を生かしドラムの修行を受けていたが、妻にとってディーラーの彼こそがよき稼ぎ手で、そのため再び麻薬に手を出すことも厭わない気配。売人のルイは影のようにつきまとう。そんな彼を親身に心配してくれるのは、酒場のホステス、モリー（ノヴァク好演）だけだった。その彼女にも今はヤクザな別の男が。やがて、フランキーにオーディションの口がかかる。恋人の目を盗んで練習に部屋を提供してくれたモリーの期待に背き、腐れ縁から受けた賭博が長丁場になり、その間、麻薬を打ち続けたフランキーは完全なジャンキーとなって、楽団入りのチャンスを逃してしまう……。全編を貫くバーンスタインのパワフルなスコアが圧巻で、映画音楽が初めて本格的にモダン・ジャズを取り入れた先駆けとして高く評価されている。

【クレジット】

監督	オットー・プレミンジャー	Otto Preminger
製作	オットー・プレミンジャー	Otto Preminger
原作	ネルソン・オルグレン	Nelson Algren
脚本	ウォルター・ニューマン	Walter Newman
	ルイス・メルツァー	Lewis Meltzer
撮影	サム・リーヴィット	Sam Leavitt
音楽	エルマー・バーンスタイン	Elmer Bernstein
タイトルデザイン	ソウル・バス	Saul Bass
出演	フランク・シナトラ	Frank Sinatra
	エリノア・パーカー	Eleanor Parker
	キム・ノヴァク	Kim Novak
	シェリー・マン	Shelly Manne
	ショーティ・ロジャース	Shorty Rogers
	ダーレン・マクギャヴィン	Darren McGavin